

## 医科総合診療部

診療科目：総合診療、内科、地域医療

診療科担当研修責任者名：鈴木 榮一（医科総合診療部教授）  
診療科連絡先担当者名：長谷川隆志（医科総合診療部准教授）

連絡先：htaka@med.niigata-u.ac.jp

新臨床研修医指導実績：16年度：0人。17年度：2人。18年度：1人。19年度：1人。20年度：2人。21年度：1人。22年度：2人。  
23年度：3人。24年度：2人。25年度：2人。26年度：2人。27年度：0人。28年度：0人。29年度：0人。  
30年度：0人。

受入期間：1ヶ月以上

同時受け入れ可能数：2人以内

## ◆◆◆ 学会認定専門医数 ◆◆◆

内科学会専門医3人、呼吸器学会専門医2人、アレルギー学会専門医1人、感染症学会専門医1人、気管支鏡専門医1人、腎臓専門医1人、透析専門医1人、整形外科学会認定リウマチ医1人、小児科学会専門医1人、糖尿病学会専門医1人

## ◆◆◆ 学会認定指導医数 ◆◆◆

呼吸器学会指導医2人、アレルギー学会指導医1人、感染症学会指導医1人、気管支鏡指導医1人

## ◆◆◆ 学会専門医修練施設としての認定 ◆◆◆

内科学会認定施設、呼吸器学会認定施設、アレルギー学会認定施設、感染症学会認定施設、呼吸器内視鏡学会認定施設、腎臓学会認定施設

## 診療科の概説・特徴

近年、高度専門医療が求められる一方で、患者中心の全人的医療を提供することが強く期待され、平成13年度に院内措置として総合診療部は開設された。平成14年度に文部科学省に新設が認可され、初代教授として本学呼吸器・感染症内科、腎・膠原病内科（旧第二内科）出身の鈴木榮一が就任した。地域医療学講座および医師キャリア支援センターのスタッフも加わり、地域医療などにも対応できる広範囲の総合診療のトレーニングが可能となっている。

## 診療科研修の特徴等

当科研修は選択科目であり、研修時期としては研修の2年目に行うこととなる。最大の特徴は、外来をファーストタッチから行うことである。医科総合診療部を訪れる多岐な訴えを主訴とする患者さんを初診の医療面接からはじまり、身体診察、各種検査のオーダー、投薬治療など全て行う。また、これらの患者さんの再来時の対応、検査結果の説明も行うこととなる。外来診療時は、常に指導医が常駐し、その場で適切な指導をマンツーマンで行う。外来の新患者例全てを検討する外来検討会を週一回設けており、自分の行った診療行為に対する指導、アドバイスとともに、上級医の外来診療行為の解説を受けることが可能であり、幅広い能力を身につけることができる。